

2 県産材活用による土木・建築資材の開発と 性能評価に関する研究（第3報）

予算区分：県 単
担当科名：木材加工科

研究期間：平成11～13年度
担当者名：松元 浩
木村 保典

・研究目的

石川県における防腐処理を施した土木・外構部材の耐用年数に関する「指針」を作るべく、数種の防腐薬剤を用い、薬剤の吸収量が明確な防腐処理材の耐用年数について検討することを目的とする。

・本年度の試験内容

試験材は、石川ウッドセンター地内に既に埋設され、暴露試験を開始しているが、埋設後2年経過時点の状況について調査した。

調査は在姿の状態では地上部の腐朽度およびクラックについて行った。

試験体ロット毎の状態は下表のとおりであった。

表 埋設試験体腐朽状況

処理薬剤	加工区分	全個体数	腐朽度 1	腐朽度 2	有クラック個体数	最大クラック長さ平均**
CuX*	無加工	16			16	70cm
	インサイジング	16			16	57
	背割り	16			16	66
CuAz	無加工	16			16	73
	インサイジング	16			16	67
	背割り	16			16	59
ACQ	無加工	16			16	74
	インサイジング	16			16	63
	背割り	16			16	52
NZN	無加工	16			16	67
	インサイジング	16	2		16	62
	背割り	16			16	40
control D	無加工	34	1		34	72
control G	無加工	42	2		42	75
total		268	5	0	268	

*CuX: 銅シプロコナゾール

** : 各試験体の材面割れの最大値の平均

地上部分ではすべての試験体に材面割れの発生が見られた

腐朽度 2 に至った試験体は現時点ではない

背割りを施した試験体は割れの発生が比較的少ない

2年後（H.16）に1/3の試験体を採取して、重量変化や強度を測定する